

書 燈



平成 29 年度図書館地区別研修(近畿地区)の様子

2 年間を終えるにあたり

三 谷 忠 弘

本報に初めて原稿を寄せてから、1年と半年が過ぎた。今月で退職するに当たり、その時の原稿を読み返してみた。これまで経験していない仕事への異動を希望していたという意味においては、希望通りの仕事ではあるが、なぜ図書館だったのかという思いのことが書いてあった。その感覚は今もあるが、これまでの異動と同様に、図書館への配属により新たな知識を得る機会を与えられたという感謝の念がある。

これまで文化・文芸分野は、新聞でも文化面はまず見ることはなかったが、今では「読む」まではいかないまでも、時々「見る」ようになった。大きな進歩だと感じている。もし今回の異動がなければ、図書館とは市民に本を貸し出すところである、という何十年も前のイメージのまま退職を迎えていたと思う。全職員が目指しており、また市民から期待されている「地域の知の拠点」としての機能は、まったく知らずに卒業していたであろうことは間違いない。

図書館を組織の中から見ると、職員の努力をどれほどの市民に認識していただいているのだろうか、という思いが最近湧いている。私が以前持っていたものと同じイメージを現在でも相変わらず持っている人はいないのだろうか。

久元市長は、非常に子供教育や生涯学習の中での図書館の果たす役割に重きを置いていただいていることから図書館のことを気にされ、色々と言及されることも多く、また明石市をはじめ各地に立派な図書館ができてきていることから、以前よりは図書館関係の情報がマスコミ等に出ることも多くなったように感じるが、それでもまだ、図書館の本当の実力が市民へどれほど深く浸透しているのだろうか。

その意味においては図書館の有している実力を、これまでの利用者への更なる周知はもちろんであるが、図書館に縁のなかった人たちに如何に知らしめていくのか、広げていくのかということが、今後は重要になってくると感じている。

秘策はなかなか見つからないが、30年度から西図書館や三宮図書館で移転等に向けた諸々の検討が始まる中で、これはまたとない機会となるかもしれない。市民の意見を取り入れながら検討を進めることが叫ばれる中、この機会を利用しない手はないように思える。あらゆる機会を利用して、市民へPRをしていくことが重要であるように思う。

私自身、今後は図書館の新しい役割を頭に入れてながら末永く付き合いたいと思っているが、改めて自分にとって図書館とは何なのかを考えていきたい。

(総務課長)

平成29年度図書館地区別研修(近畿地区)報告

平成29年度図書館地区別研修(近畿地区)が、2月6日(火)から9日(金)の4日間、神戸市教育会館6階大ホールにて開催された。参加者数は合計176人。各日の参加数は53人、82人、82人、46人で、延べ263人が参加した。以下に研修の概要を報告する。

1日目

文部科学省行政説明 図書館行政の動向

文部科学省生涯学習政策局社会教育課課長補佐
丹野史教氏

多様化するニーズにより、単独施設としてではなく「ネットワーク型行政」の再構築を行うことが社会教育行政の今日の課題であるとし、その課題の具体的な事例をご紹介いただいた。また地域や暮らしに根ざした新しい図書館サービスの可能性を示唆されるとともに実践例の提供も呼びかけられた。

(調査相談係長・大黒)

基調講演 図書館のこれまでとこれから

昭和女子大学名誉教授 大串夏身氏

“知る”を共有するために作られた図書館。本講演ではその役割をまず確認し、戦後から今に至るまで様々に行われた貸出や課題解決支援等の図書館活動を概説された。また、欧米諸国と比較して日本の図書館が十分ではない面を指摘された。これからの図書館は、社会の変化や学習方法の多様化に応じたサービスを提供しなければならない。住民の情報リテラシーの向上に資するレファレンス、発達段階に応じた読書支援、すべての人に学習の機会を提供し“知る”を保障すること。その上で、本を仲立ちに人と人を結び、良質な地域社会の形成に寄与しなければならないと話された。(企画情報係・西山)

2日目

講義① 地域の活性化と図書館の可能性

～「夢」を応援する図書館の挑戦～

鳥取県立図書館 高橋真太郎氏

ヒマワリオイルの商品化をレファレンスで支援するなど、地域の活性化に貢献する様々な実践例を通して、多様な人・機関との「連携」と図書館の外部へ出ていく「行動」の必要性を語られた。この活動を継続する仕掛け、①多様な人の来館を促すべく外部のイベント等への出張展示・貸出等や広報活動を積極的に行う②資料収集の充実と展示での情報発信、レファレンスに必要な情報収集に努める③図書館全体で取り組むことも紹介された。講義中に各図書館での実践をグループ討議し、終了後に各館の事例(50件)を掲示板に貼り出し見てもらうなど、多様な取り

組みに触れることができた。(資料係・本田)

講義② 図書館とオープンデータ

京都府立図書館 是住久美子氏

京都府立図書館の職員による職場内学習グループ「ししょまろはん」によって作成されたスマートフォンアプリ「京都が出てくる本のデータ」や、オープンデータ京都実践会による「京都まちあるきオープンデータソン」の活動など、オープンデータを活用した情報発信の事例をご紹介いただいた。

また、オープンデータに関する基礎的な知識や、近年における国内外の動向などの解説、さらには、ウィキペディアタウンなどの具体例をもとに、図書館とオープンデータとの関わりや、今後の可能性についてもお話しいただいた。(資料係・高橋)

講義③ 医療・健康情報サービス

－「認知症にやさしい図書館の実践」

川崎市立宮前図書館 舟田彰氏

団塊の世代が後期高齢者となる2025年を見据え、川崎市では「地域包括ケアシステム」の構築が進められている。宮前図書館では、認知症関連本コーナーやチラシの設置等の情報提供のほか、高齢者デイケア施設への読み聞かせボランティアの養成、認知症の人を図書館から地域包括支援センターへと繋げる橋渡し等、「人と資料」「人と人」とを結ぶ取組が行われている。図書館と福祉施設、市民が連携し、それぞれの強みを活かしながら地域住民の生活を支えていくことが肝要と締めくくられた。

(市民サービス係・三木)

3日目

講義④ 「ゆるやかな機能連携」と「場」としての図書館における来館を促す建築的魅力について

愛知工業大学教授 中井孝幸氏

地方都市の公共図書館や大学図書館、学校図書館を対象とした来館者のアンケート調査や館内利用の行動観察調査の結果をご紹介いただいた。図書館の「場」としての役割は、地域による特色をいかに必要があり、静的空間だけでなく動的空間への期待もあるとお話しいただいた。また、利用者が相対的に図書館を選択して利用しているとも示された。

最後に今後の課題として、図書館は一時的なにぎわいの創出だけでなく、時間をかけて使い込まれて醸成されるものだと言われた。(資料係・竹中)

講義⑤ 新しい「日本目録規則(新NCR)」

－何が変わるのか?－

帝塚山学院大学教授 渡邊隆弘氏

新NCR(NCR2018年版)策定の背景・経緯や基本方針を踏まえた上で、その基盤にある「FRBR(書誌レコー



ドの機能要件)モデル」について、概念図によって分かり易く解説いただいた。従来の改訂版ではなく大きく構成の異なるものとなっており、「FRBR」の理解は必須である。さらに現 NCR の例も交えながら、新 NCR の構成・内容、特徴や意義について講義いただいた。なお、2018 年 3 月に「予備版」が PDF で公開予定である。(資料係・乾)

講義⑥ 図書館システムの新しい潮流

—Next-L Enju の経験を踏まえて—

同志社大学大学院教授 原田隆史氏

図書館を取り巻く状況の変化により、業務の効率化を図りつつ、積極的なサービス展開を行うためには新しい時代に対応した図書館システムの開発が急務とされている。そのため、原田氏は「Project Next-L」という図書館システムの仕様を図書館員が共同で作成することを目指すプロジェクトを立ち上げ、「Next-L Enju」なるオープンソースソフトウェアとしての図書館システムを開発された。その開発経験を踏まえて、図書館システムの基本知識や新しい動向、電子書籍やマイナンバーカードと図書館の関係についても語られた。(市民サービス係・吉田)

4 日目

講義⑦ 学校司書配置による学校図書館活性化への取組

神戸市立中央図書館 阪本和子氏

学校司書配置に関する神戸市と全国のデータを比較し、取組の事例や効果について現状の把握を行った。学校図書館のさらなる活性化を目指して、学校司書の研修を行ったり、利用可能な市立図書館のサービスを紹介したりしていくなかで、学校司書の行うサービスと市立図書館が行うサービスの棲み分け等の課題にも触れられた。過渡期である今、子供たちを取り巻く社会的状況に注視し、近い存在である先生方の理解を促進するなど、子供たちにとってプラスに働くような継続的な取組が必要であり、図書館の立場からも学校司書を支え見守っていききたいと語られた。(調査相談係・平野)

まとめ

今回の研修は、各日ごとに関連のある講義がまつまっており、興味のある日にだけ参加したという方が多かったと思われる。また、2 日目のワークショップ形式の講義では、各館の事例などを午後以降、会場内で掲示していたため、多くの受講者が熱心に見ていた。今後、それぞれが、この研修で得たものを実務に活かされることを期待したい。

(資料係長・棟安)



〈新規採用職員エッセイ〉

「情報と思想のひろば」をめざして

竹中 晴香

神戸市立中央図書館で働き始めてから、早 1 年が経とうとしています。

図書館で働いていると話すと、多くの人に「本の貸出や返却をする仕事ですか?」と聞かれます。図書館を利用する側から見ると、図書館の仕事といえば、カウンターなどで作業をする仕事というイメージが強いかもしれませんが、ところが、私が配属されたのは書誌データの作成や本の発注や支払い業務を行う資料係です。多くの人のイメージとは違う業務を担当しています。「テクニカルサービス」と呼ばれる図書館のバックヤードでの業務は、図書館の縁の下の力持ち的な存在だと大学で聞きました。資料係はまさにその言葉を実感する係です。

主な業務である書誌データの作成では、現物を 1 冊ずつ手にとり、データを入力します。データの入力には規則があり、情報源や書き方などが細かく決められています。はじめの頃は分からないことばかりでマニュアルとにらめっこ状態でしたし、先輩方にも度々質問していました。その頃に比べるとだいぶ慣れましたが、洋書や書庫にある古い本のデータを作成・修正していると、珍しいパターンと出会うこともあり、その度に勉強になります。

図書館のなかでも、書誌データの作成に従事する図書館員はカタログラーと呼ばれます。まずは「一人前のカタログラーです」と言えるようになることが私の目標です。

大きな目標もあります。アメリカ図書館協会の図書館の権利宣言に「すべての図書館が情報と思想のひろば」という言葉があります。この言葉は、図書館のあるべき姿を現していると感じますし、私の好きな一文でもあります。図書館に情報があることは当たり前ですが、市民の方に図書館を使っていたら、新しい発見や考えが生まれる場所であってほしいです。そんな図書館であるように努力し、活躍する司書になりたいです。

今は自分の担当業務をこなすだけで精一杯で、まだまだ未熟ではありますが、日々努力していきたいと思います。

(資料係)

－三宮図書館の再整備－

11月20日の市長就任会見において、都心・三宮再整備の計画の中で、三宮図書館がバスターミナルビル内(現在の場所)において拡張・新設されることが明らかになった。ビル内の位置や規模、工事中の仮移転先などについては今後の検討事項となる。

(総務課担当課長・鎌田)

－図書館業務システム更新・機器更新－

平成29年2月23日から平成30年1月3日まで、図書館業務システムを構成するプログラム言語(Ruby)等のバージョンアップ作業と、業務用アプリケーションの改修作業を行い、1月4日に稼働した。併せて、年末年始休館中に、全館および北須磨文化センター図書室に設置のローカル機器の更新作業を行った。また、全館の自動貸出機と予約図書受取コーナー用端末について、改修後のシステムに対応するOSへのバージョンアップ作業を順次行い、1月中に終了した。

(企画情報係・堀口)

－館内研修の実施について－

12月21日、研修として、ワークショップ「ターゲットを想定した図書館サービスの検討」を行った。進行は図書館司書専門講座を受講した職員が務め、全館から参加者を募り、グループごとに割り当てた具体的なターゲット層に対するサービス内容を検討した。普段接することの少ない他館の職員との意見交換が、今後それぞれの業務を考える中での糸口となり、同じ市立図書館員としての交流の契機となればと考える。(調査相談係・赤澤、企画情報係・西山)

－初めての試み－

【「神戸村文書」を読む会】

当館の貴重書庫資料を活用した「『神戸村文書』を読む会」が文化財課と神戸大学大学院地域連携センターの主催で開催された。全4回の講座の最終回(12月2日)では、共催の当館を会場とし、受講者に古文書の原物もご覧いただいた。来年度の開催も期待されている。

(調査相談係長・大黒)

【みんなで楽しむ音読の会】

頭と体の健康に役立つ音読の一般向け講座を11月30日に開催した。詩や古典、小説、歌など、他の人と声を合わせて文章を読むことの意外な心地よさ、楽しさを体験された参加者からは、継続開催を望む声を多くいただいた。

(企画情報係・西山)

【ブックコート体験教室】

12月5日に開催。参加者は5名で、図書館が用意した練習用の本と持参の本にブックコートフィルムをかける体験をしていただき好評だった。

(資料係・本田)

－小児科等への「えほんの小箱」配布について－

各図書館近隣の小児科等へブックリスト「えほんの小箱」の設置を依頼し、現在、全館で合計13か所に置かせていただいている。普段図書館へ来られない方にも絵本への関心を持ってもらえるきっかけになればと考えている。

(市民サービス係・三木)

－地域館トピックス－

【灘図書館のエレベーター工事について】

1月31日から3月17日まで灘図書館の利用者用エレベーターの付け替え工事が行われた。利用者の誘導も物流の搬出入も混乱なく行われた。

(総務課担当係長・村井)

【垂水区役所エントランス空間プロデュース】

垂水図書館が垂水区まちづくり課・神戸市立工業高等専門学校生徒と連携し、区内の名所を紹介する「模型案内マップ」を製作した。完成したマップは、12月から同施設内の区役所に設置されている。

【下町芸術祭への応援参加】

新長田図書館は、11月に開催された下町芸術祭に、「下町ライブラリー」(関連図書の団体貸出)や「手型スタンプ」の収集(建設中の新長田総合庁舎の仮囲いを彩るアート作品へ使用)で協力した。地域情報の発信や課題解決に、図書館が活躍できることを印象づける良い機会となった。

(企画情報係・布川)

－平成30年度蔵書点検日程－

中央図書館	5月28日(月)～6月7日(木)
東灘図書館	5月16日(水)～5月21日(月)
灘図書館	4月18日(水)～4月23日(月)
三宮図書館	5月23日(水)～5月28日(月)
兵庫図書館	4月18日(水)～4月23日(月)
北図書館	4月11日(水)～4月16日(月)
北神分館	5月30日(水)～6月4日(月)
新長田図書館	4月11日(水)～4月16日(月)
須磨図書館	6月6日(水)～6月11日(月)
垂水図書館	5月23日(水)～5月28日(月)
西図書館	5月16日(水)～5月21日(月)

－手帳－

会議	2.2 KEMS確認審査
	2.16 第2回近畿公共図書館協議会
	3.5 予算特別委員会局別審査
	3.9 中央図書館職員安全衛生委員会
	3.27 図書館協議会
研修	2.6～2.9 文部科学省地区別研修(神戸)
行事	12.16 ビジネス支援講演会
その他	10.16～3.23 北図書館外壁工事
	11月 補正予算(垂水・西買替え費用)
	11.29 市民満足度調査(全館)
	12.1～1.31 マナーアップキャンペーン
	12.29～1.3 ローカル機器更新とシステム更新
	1.17 非常招集訓練、神戸市シェイクアウト訓練
	2.15 消防訓練
	3.7 「こうべ改善～案・D0・トライ～」努力賞受賞 (企画情報係・布川、市民サービス係・吉田)
	3.19 閲覧室2の机・椅子入替え